

定期作況報告

(第4号 平成24年8月20日現在)
地方独立行政法人北海道立総合研究機構
農業研究本部 上川農業試験場

1. 気象概況

7月下旬：最高気温は平年より2.7℃高く、最低気温は平年より2.2℃高かった。7月31日に37.0mmの降雨があったほかはほとんど降雨が無く、降水量は平年より4.5mm少なく、平年対比89%であった。降水日数は平年より2日少なかった。日照時間は平年より12.8時間多く、平年対比124%であった。夏日（最高気温25℃以上）は11日、真夏日（最高気温30℃以上）は5日であった。

8月上旬：最高気温は平年より2.5℃低く、最低気温も平年より2.4℃低かった。降水量は平年より29.7mm多く、平年対比166%であった。降水日数は平年より1日多かった。日照時間は平年より2.0時間少なく、平年対比96%であった。夏日は5日、真夏日は無かった。

8月中旬：最高気温は平年より0.3℃高く、最低気温も平年より0.4℃高かった。降水量は平年より64.0mm多く、平年対比211%であった。降水日数は平年並であった。日照時間は平年より9.5時間少なく、平年対比79%であった。夏日は9日、うち真夏日は1日であった。

7月下旬から8月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	7月下旬			8月上旬			8月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	29.1	26.4	2.7	25.3	27.8	▲2.5	26.5	26.2	0.3	27.0	26.8	0.2
最低気温(℃)	18.4	16.2	2.2	15.9	18.3	▲2.4	17.2	16.8	0.4	17.2	17.1	0.1
平均気温(℃)	23.2	20.8	2.4	20.1	22.7	▲2.6	21.8	21.0	0.8	21.7	21.5	0.2
降水量(mm)	38.0	42.5	▲4.5	75.0	45.3	29.7	121.5	57.5	64.0	234.5	145.3	89.2
降水日数(日)	2	4	▲2	5	4	1	4	4	0	11	12	▲1
日照時間(hr)	66.3	53.5	12.8	48.3	50.3	▲2.0	36.3	45.8	▲9.5	150.9	149.6	1.3

注1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10カ年の平均値。

3) ▲印は平年に比べて減を示す。

2. 作 況

1) 水 稲 : 平年並

事由：出穂期は平年に比べ「ほしのゆめ」が1日遅く、「きらら397」、「ななつぼし」が2日遅かった。穂揃い日数は平年に比べ「ほしのゆめ」、「ななつぼし」が2日長く「きらら397」は平年並みであった。最終止葉葉数は平年並であった。

8月20日現在、稈長は平年に比べ1.9～2.7cm短く、穂長も0.8～1.1cm短い。㎡当たり穂数は平年対比で「ほしのゆめ」、「きらら397」が112%、「ななつぼし」は106%であった。

以上、㎡当たり穂数が平年より多いものの、穂長が短いことから、目下の作況は「平年並」である。

表2 生育期節

品種名	苗	出穂期(月・日)			穂揃い日数(日)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
ほしのゆめ	成苗	7.23	7.22	1	9	7	2
きらら397	成苗	7.25	7.23	2	7	7	0
ななつぼし	成苗	7.24	7.22	2	9	7	2

注1) 平年値は平成17～23年7カ年中、平成20年、平成21年を除く5カ年の平均。

2) 出穂期：有効茎数の40～50%が出穂した日。

表3 8月20日現在の本田生育

品種名	苗	最終止葉葉数(枚)		
		本年	平年	比較
ほしのゆめ	成苗	10.0	10.0	0.0
きらら397	成苗	11.2	11.2	0.0
ななつぼし	成苗	10.6	10.6	0.0

品種名	苗	稈 長(cm)			穂 長(cm)			穂 数(本/㎡)			
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	対比(%)
ほしのゆめ	成苗	61.7	64.4	▲ 2.7	15.3	16.3	▲ 1.0	794	711	83	112%
きらら397	成苗	60.6	62.6	▲ 2.0	16.1	16.9	▲ 0.8	754	676	78	112%
ななつぼし	成苗	66.6	68.5	▲ 1.9	16.1	17.2	▲ 1.1	688	652	36	106%

注1) 平年値は平成17～23年7カ年中、平成20年、平成21年を除く5カ年の平均。

2) ▲印は平年に比べて「減」を示す。

2) 秋まき小麦： 不良

事 由： 成熟期は平年並であった。穂長は平年よりやや長く、千粒重と容積重は平年より重かったが、穂数は平年を大きく下回った。この結果、子実重は平年比 91 %と低収となった。

したがって、目下の作況は不良である。

表4 秋まき小麦の生育・収量

品種名	成熟期 (月日)			穂数 (本/m ²)			穂長 (cm)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きたほなみ	7.19	7.19	0	529	711	▲ 182	8.9	8.5	0.4

品種名	子実重 (kg/10a)			子実重平年比 (%)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きたほなみ	662	726	▲ 64	91	100	▲ 9

品種名	千粒重 (g)			リットル重 (g)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きたほなみ	41.5	38.7	2.8	814	787	27

注 1) 平年値は、前7か年中、平成19年、22年（収穫年度）を除く5か年の平均値。

2) ▲は平年より減を示す。

3) 春まき小麦： やや良

事 由：7月下旬は高温、干ばつに経過し、成熟期は平年より1日早かった。稈長、穂長、穂数は平年を上回っていた（前報）。なお、倒伏程度は中であつた。収穫物は乾燥中である。

したがって、目下の作況はやや良である。

表5 春まき小麦の生育

品種名	成熟期（月日）		
	本年	平年	比較
春よ恋	7.28	7.29	△1

注1) 平年値は、前7か年中、平成20年、22年を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早を示す。

4) 大豆： やや良

事 由：主茎長は平年より10cm程度長く、7月31日～8月1日の雨により倒伏した。主茎節数は平年並だが、分枝数は平年より多く、着莢数も平年より多い。

したがって、目下の作況はやや良である。

表6 8月20日の大豆の生育

品種名	主茎長（cm）			主茎節数（節）			分枝数（本/株）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ユキホマレ	78.0	67.7	10.3	10.5	10.5	0.0	7.6	6.8	0.8

品種名	着莢数（個/株）		
	本年	平年	比較
ユキホマレ	94	84	10

注 1) 平年値は前7か年中、平成18年、22年を除く5か年の平均値。

5) 小 豆 : やや良

事 由： 開花期は平年並であった。7 月下旬は高温、干ばつ傾向に経過し、立毛観察によると着莢は緩慢であった。8 月上旬から中旬はやや低温多雨に経過し、徒長したものの、着莢数の増加は順調であった。主茎長、本葉数は平年をやや上回り、分枝数は概ね平年並である。着莢数（3cm 以上）調査では、2 品種平均で 64 莢/株であり、平年の成熟期の着莢数 56 莢/株をやや上回っている。なお、7 月 31 日の降雨により倒伏が始まり、倒伏程度は多から甚である。

したがって、目下の作況はやや良である。

表 7 8 月 20 日の小豆の生育

品 種 名	開花期 (月日)		
	本 年	平 年	比 較
エリモショウズ	7.22	7.22	0
しゅまり	7.22	7.22	0

品 種 名	主 茎 長 (cm)			本 葉 数 (枚)			分 枝 数 (本/株)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
エリモショウズ	74.5	67.5	7.0	14.2	12.8	1.4	5.7	5.3	0.4
しゅまり	80.4	73.3	7.1	14.3	12.3	2.0	5.4	6.2	▲ 0.8

注 1) 平年値は、前 7 か年中、平成 19 年、平成 20 年を除く 5 か年の平均値。

2) ▲は平年より減を示す。

6) ばれいしょ : やや不良

事由：7月下旬の高温、干ばつにより茎葉はしおれ、黄化が進んだ。株当り上いも数は平年より1個少なく、上いも平均一個重も平年より4g軽いため、上いも収量は平年比88%と少ない。でん粉価は平年より0.6ポイント高い。

したがって、目下の作況はやや不良である。

表8 8月20日のばれいしょの生育

品種名	上いも数(個/株)			上いも平均一個重(g)			上いも収量(kg/10a)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
男爵いも	10.8	11.8	▲1.0	93	97	▲4	4447	5043	▲596

品種名	でん粉価(%)		
	本年	平年	比較
男爵いも	15.5	14.9	0.6

注 1) 平年値は、前7か年中、平成19年、22年を除く5か年の平均値。

2) ▲は平年より減を示す。